

畫本西遊全傳

二編

四



48  
2500  
40-14





八通1特  
2500  
巻 40-14

油漬

繪本西遊記二編卷之四

油漬

一粒金丹天上得

三年故主世間生



孫行者ハ師又ク緊箍咒を念ぜんといふ困りし。國王を活せんと  
 工事を廻りて忽ち心中小手段を按出し掌を赤く然りりくと  
 三藏問て曰。汝國王を医とて死手段を按出せりや。行者答て曰。別  
 小手段なりといふも。老孫去り太上老君の許し行。一粒乃九轉還魂丹  
 をこきこころを治しとて医治せし。三藏大に悦び。汝早く行てこい  
 きん。行者唯々々々。勦斗雲小跳上り。南天門より入り。透小三十三重  
 幸宮中へ入る。老君正丹房中。小在り丹を煉居り。行者と  
 同。曰。大聖汝曹僧を杖て西天小行む。却て茲ふまき。は何の  
 也。行者とて。烏雞國王の更進を鏡とて一遍。何卒老君一粒の

西遊記二編卷之四

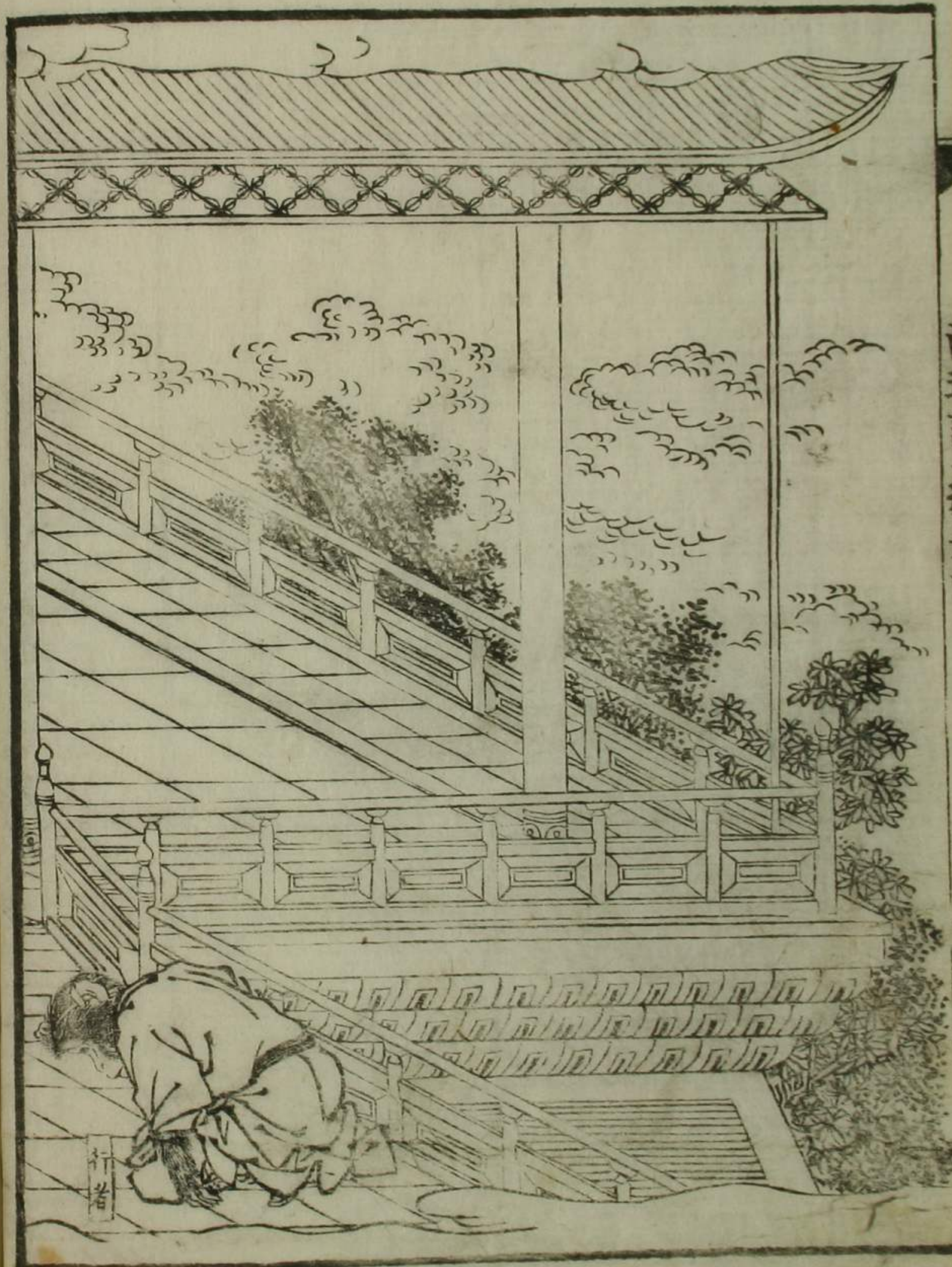


九轉還魂丹を恵む。我、那国王を医治為す。妖人を降し、其老  
 君心小金丹をよす。其を惜めども、他、神通をりつ。多く偷去し  
 るを恐まじ。且善く、その絶たせ。うかれ、僅小丸を取出し。行者  
 ふあ、悟空是を錯取。拜謝し、老君小詩し。別まじ。逕、小寺中  
 へ回。下り、師又小獨。三藏悦。丹藥を乞。これ、同行者有  
 く。答へ、汝僧小命。水を取。世、邪金丹を吐下。灌下せ。ハ  
 一、何む。有り。肚内乱向。行者其、何、唇口をあ。一、口、氣を吹。ハ  
 咽喉より、度々、重樓を下。明堂、小、持。小、丹田。又、湧泉、  
 下り。返、泥、垣宮。小、至。一、声、响。気、聚。神、飯。思、を、謝。す  
 身を翻。起。師、又、を、呼。双、膝、を、屈。三、拜。思、を、謝。す  
 三藏、慌、忙、と、挽、起。座、上。小、錯。礼、を、を、折。寺、内、の、僧、人

早、商、を、献。き。心、ち、水、衣、の、皇、帝、を、カ、大、の、小、井、を、見、惑、悟、空  
 が、曰、這、本、の、烏、雞、国、王、少、く、を、あ、つ、汝、ホ、大、且、那、を、三、年、前、の、妖、人、  
 害、せ、し、ま、ひ、を、老、孫、昨、夜、救、ひ、活、せ、り。今、又、城、小、進、ん、邪、正、を  
 辨、明、せ、し、ま、早、く、命、を、献。き。衆、僧、驚、歎。一、各、小、旦、暮、と  
 献。し、ま、五、人、等、く、吃。罷、行、者、国、王、小、教。身、上、の、袍、帶、  
 冠、履、を、し、く、脱、下。僧、官、小、命。布、の、直、裰、一、條、の、黄、絲、襪、  
 一、双、の、僧、鞋、を、と、り、ま、せ。是、を、国、王、乃、衣、服、冠、帶、小、換。叔、僧、官、  
 向、ひ、我、今、皇、帝、を、送。城、小、進、行、後、日、賞、賜、を、乞。汝、小、謝。せ、  
 又、衆、僧、小、分、付、送。送、り、む。あ、れ、妻、を、偏、さ、却、く、不、良、  
 衆、僧、領、掌、ま、去、ぬ。茲、小、於。三、藏、師、徒、を、小、国、王、を、五、人  
 一、各、小、路、を、急、た、烏、雞、國、の、城、中、小、り。朝、門、小、倚。曰、貧、僧、茲、小、



老君  
悟  
空  
於  
仙  
丹





了圖文を換し為小侍小きころ大王を煩しむ願くは此傳達  
 一むし中を必黄門官急小令斯と啓奏し那大王もあつら令して  
 宣入るふ五人選小殿前小挺立す不動衆官奇く曰這野僧无  
 礼なり何し下拜せむや大王他亦を制し曰和尚は何方より  
 来きける人ぞ行者が曰我は東土唐王の差西天小往く佛を拜し  
 經を求むと今時きころ通関文牒を換し我願ひひかり大王が  
 曰汝亦四人の和尚子細小尋るふ及が守這二個の道人踪迹疑はし是  
 何方の人ぞ民各を呼り取供を拿きこれ行者が曰這老道人龍耳  
 且啞なり我他小根本よりしりし知事なり我他小替り供をいふ  
 大王が曰汝も笑ふ小供せよ罪を免さん行者もあつら供と其文小曰  
 供狀行童年老邁痴聾瘖啞家私壞祖居原是此間

人五年之年遭破敗天无雨民乾壞鐘南忽降全真  
 怪呼風喚雨頭神通然後暗將他命害推下花園深  
 井陰侵龍位今三載幸吾求功果大起死回生傳法  
 界要向金臺女假真技王滅怪安朝代也  
 大王是をばや心中大の小強た忽ら宝劍を執り雲小駕り空と望  
 く遊事さる八戒汝僧爆燥如何せん嚷立行者兩人を制し兎兼嚷  
 らるを止り太子娘々を呼きころ又王を拜せしと八戒さあハ  
 ち國王を殿上へ請し太子娘々小拜させされハ太子娘々ハ更小あら  
 心地し親子三人手を組り嬉涙小られぬ文武百官の皆ハ  
 妖怪の障碍を覚り山呼りころ限り行者衆人小向ハ  
 いぐ我妖ナを捉し急小跳り空中上四方を睜眼ハ



那大王徑まじ東北きたかへをまじまじまじ去まじ行者あつ追まじひまじくまじ大おほ喝おほ妖まじ怪まじ那まじ里まじへ  
 うまじまじまじやまじとまじ呼まじ那まじ大王おほ大おほ怒おほ頭おほをまじ聞まじくまじ宝た劍たをまじ提まじげまじ行者あつは  
 對まじひまじ砍まじくまじままじのまじ行者あつもまじ金きん箍こ棍こをまじ舉あげまじ相あ迎むかへまじくまじままじのまじ數た十じ合ご妖  
 怪まじ力ち怯けままじままじ急まじ小こ身みをまじ抽ひきまじ本もとのまじ城じやう中ちゆうへまじ跳はりまじ下くだりまじ白はく玉ぎよく樓ろうのまじままじのまじ  
 文武ぶんぶのまじ並なままじ中ちゆうへまじ入いりまじ身みをまじ搖ゆるまじ一いつ變へん忽とちまじ三さん藏ざうとまじ一いつ般ぱんのまじままじのまじ  
 とまじりまじ楷かい前ぜんふまじ並なままじ行者あつ追まじままじりまじくまじままじのまじ兩りやう個ごのまじ三さん藏ざう有ありまじ之これは  
 假か雞せがまじ真まとまじしまじままじをまじ年としせまじずまじ敢あてまじ捧たをまじ舉あげまじ乱らん歩ぽ更まもまじ不ふ能ぞう心しん大だい  
 焦せう燥ぞう如ごと何なにせんまじとまじ穿あんまじ煩わづふまじ八はち戒かい傍ぼうふまじ在ありまじ可か々々とまじ大だい口くち開ひらかまじるまじ行者あつ  
 怒おりまじくまじ曰いふまじ汝なん這こ妖まじ子こ這こ般ぱんのまじままじ何なにをまじままじやまじ八はち戒かい尚なほもまじままじ曰い  
 哥あ々々我われをまじ妖まじ子ことまじしまじ汝なんをまじ我われ小こ比ひるまじ我われよりまじ八はち又また妖まじ甚しかりまじ師し又また二に個ご  
 ありまじくまじ何なにぞまじ些ちのまじ頭あたまのまじ疼いたむまじ又また那なんのまじ児こをまじ念ねんふまじままじ

りまじ師し又また児こ孫そんをまじ念ねんふまじ頭あたまのまじ疼いたむまじ是こゝ妖まじ怪まじなりまじとまじ行者あつ曰いふまじ  
 是こゝとまじ理ことなりまじとまじ先まづ一いつ個ごのまじ師し又また児こ孫そんをまじ念ねんふまじ三さん藏ざうとまじ一いつ般ぱん  
 ちまじ緊きん箍こ児こをまじ念ねんふまじ行者あつ頭あたまをまじ抱かきまじ頭あたま疼いたりまじ児こ孫そんをまじ止とめまじとまじ謝あや  
 又また一いつ個ごのまじ師し又また向むかひまじ児こ孫そんをまじ念ねんふまじ師し又またもまじままじのまじ児こ孫そんをまじ念ねんふまじれまじど  
 頭あたまのまじ疼いたむまじ不ふ覺かく八はち戒かい曰いふまじ是こゝ一いつ定ぢやう妖まじ怪まじなりまじとまじ鉞せんをまじ舉あげまじ一いつつまじくまじ那  
 大王おほ本もと相あをまじ現あらわまじ跳はりまじ空そら中ちゆうへまじ上ありまじ八はち戒かい汝なん借かりまじ空そら中ちゆうへまじ赴ゆきまじ左  
 右みぎよりまじ変かりまじ攻せめまじ行者あつもまじ隨まづまじままじりまじ正ただ小こ手てをまじ下くだりまじままじのまじ所ところ小こ只ただままじるまじ東とう北ほくのまじ上うへへまじ一いつ朵たのまじ彩さい雲うん幾いくもまじ裡うち面めん小こ声こゑ有ありまじ孫そん悟ご空くう又また  
 一いつ手てをまじ下くだりまじままじをまじ休やすむまじ呼よびまじくまじ行者あつ頭あたまをまじ回くわくまじ是こゝままじのまじままじままじままじ  
 ままじままじ是こゝ文ぶん珠しゆ菩ぼ薩ざつなりまじ行者あつ急まじ小こ捧たをまじ反あままじ進しん行ぎやう礼らいをまじままじ  
 文ぶん珠しゆ宣せんのまじ悟ご空くう我われ汝なん小こ替かりまじ那なん妖まじ怪まじをまじ収あめまじ一いつ行者あつ曰いふまじ此こゝ妖まじ怪まじ







是何者なるも文珠堂へ他は長我坐下乃音毛の獅子なり曾く如  
 来乃首差小行ハ當務鳥雞國王善を好く僧を供養と佛我小  
 命し他を度せしめ因て我喪し凡僧しなり他小凡の故  
 意を同幾句乃言落をもち相難せし他各小倦て却て怒を  
 護し我を細縛し御水河の底小浸と三日三夜小おふ如来  
 故小此怪を遣し他を井小推落し我を浸ししるし三年  
 浸ししるし我二日一夜の水災小報あふなり行者曰是甚り  
 中らむ他怪佛勅と得く汝が仇を報し何ぞ三宮娘を汚し  
 網常の倫理を壊や文珠宣ハ他取く娘を汚し倫理を乱  
 せしるをせし是彼娘を小同くも察せし八戒大死ふし這妖猪  
 猪鼻子酒も吃がし狂し其ヤを擔可笑さし行者曰汝獸

子戲言をりしを休よと文珠小對ハ早く妖猪を収去ふと  
 乞文珠點首唱し宣く畜生還正小飯と東ハ何の因を待と  
 其河那大王忽ち原身を現し音毛乃獅子となる文珠菩薩  
 その背上小坐しめハ悟空ホ小辞し西天小去去めひたり  
 嬰兒戲化禪心乱  
 猿馬刀啼木母空  
 却統行者汝僧八戒三人雲頭を按下朝内小のれも君臣宮  
 妃一毎小迎て拜謝と行者其河文珠菩薩乃怪を収めあふと  
 鏡更せれも國王指下小跪し啼哭し佛乃穢を思も三藏小向ハ  
 我死く三年今師又の救を蒙り幸小回生とこれの何の面  
 有て王位を踐願く師又を請く此國を讓り我永く其臣下  
 せんしやされれも三藏敢く不肯又行者を請く君とせんあま



行者もへ不肯國王不好已天下小入教を行ひ東閣小筵宴を致  
 三藏師徒を款待と知小宝林寺の寺僧四人王の冠履袍帯を捧来  
 里重跡の賀を演多六國王是亦恩賞を賜ひとも小宴席を結  
 款待多斯其次の日三藏師徒國王小辞して立出まを國王太  
 子を始上下大小余波を惜と種々の寶貝金銀を踐別つとも獻  
 るといふも三藏固く辞して分毫成も不受茲亦あつて君臣太子送  
 二百里の外小のりて別る此河正小秋冬乃始なり師徒朝小  
 行夕小中りて行路を往して半月余然亦一坐の高山小行くる十分  
 險峻小く半空小一朶の紅雲聚里一塊の火氣有を思ふ行者大  
 の小井もた師又を馬より搦下し八戒沙僧をも呼とも兄弟も小  
 走ろてなれ妖怪多なりといひれば兩人も跨然とて師又を圍繞

此河雲中亦ある怪小ら我人の貌を少小唐僧西天小行經と  
 とも他小原金蟬長老の博生なり他小塊の肉を吃河と延年長  
 壽なりしむと故小我日々山間小在て候亦果しく此一連の和尚  
 邪康王の使をり中亦馬小棄も亦其三藏小一但一徒弟三  
 人の醜死和尚只今唐僧を困遠とも他眼力有る我貌を知らぬ  
 我今勢ひをりて捉へしむと容易とらじ我一針を絶く捉へて遠  
 小紅光を散し雲頭を下下り身を揺し七才許の頑重となり林  
 繩をもつて手足を細め松樹の梢小鈎下られ我を救てと叫ひ居  
 たり行者紅光の散り尽をりて師又を結り馬小棄し路を  
 亦三藏が曰汝妖怪ききるといひり又路を行何りぞ行者曰我  
 子先小雲中をんれ紅光大氣あり是必と妖怪精きるなり今



紅雲散一尽他人を害心なく行ど死んぞも。三藏師徒扱ハ心定  
 一とよらひ馬を進く行る半里むり。勿心う樹上ふ人在く戒を救  
 ろんと叫三藏頭を指く見れど。一個の小童赤身少く手足を細  
 らし樹上ふ鉤まき有。三藏大い憐れ早く救よと命ど行者推  
 止師又他ふ怪されふ是妖怪なり。三藏更ふ信せず。汝稍も  
 まし人を片く妖怪しす。まきりやの如きと叱懲し。樹下ふりり  
 聞く曰汝ハ那家の子見ぬ何とく釣まき有や。妖怪洞を流りり  
 師又皮を我家ハ這山ハ西ふあり。我又を呼ぶ紅十萬とく。金銀を  
 借り利を量ふ无籍の人騙借り元利も回す。又よよりはハ  
 誓をまき今毫中人ふ不借那歸り兇黨をくく。白日我家り  
 きり財物を捨とり。我又親を殺し母親を擄去母親我を擄る

押小把く哀を哭々此山中ふりり。那とよ要り我を殺し母親小銭  
 ん子。母親種々小哀を頼り。那賊とふ刀を収り繩をかり。斯  
 木のよ小釣提母親を掠り那里去。我北小吊まき在る。巳ふ  
 三日さふ一個の行人も。然る今師又小逢願く。救ひぬ世没  
 なく恩恵を忘ま。三藏空く洞を流し。八戒ふ付く繩索をま  
 救り救ひま。行者喝く曰這漢妖怪架兇擄鬼と。事とふん池  
 が又賊小殺され母も賊小擄れ。汝むり助まき誰人おう交る。那怪  
 曰和尚く。がらふ。我又母亡し。とも親戚も存と。我外公山南ふ  
 あり。姑娘嶺北ふあり。林内紅三ハ是族伯なり。八戒白哥々。這小兒泣  
 く尋るふ及が手とく。戒刀を把く。索を斬怪者を杖下と。三藏聞  
 曰汝行く路を行や。妖怪白我手脚と。麻を腰骨疼く路







まろくまろく。茲こゝ小ち三藏行者小命こゝろ曰い汝他なんを込こ行い情じやう唯ただ々々那怪なかいを込こ行い心こゝろ中なか小ちああくく損殺あやむここ小ち人ひと那怪なかい早はやく知し死しす。とまろくとまろく一ひと口くちの氣きを放はなち吹ふく背せ上うへ小ち有ある小ち忽たちち重おもなる手て介けむろろ。行者大おほ怒こり石頭いしづを望のぞみく損殺あやむ小ち妖まじ怪かい早はやく解と先まの法はふをほくひひ空中くわうちゆう不な上じやうく一ひと声こゝろ响なんん一ひと陣じん乃すなはち旋風せんぷうを吹ふ出だす程ほど小ち石いしを走はり砂すなを揚あげる三藏大さんざう小ち妖まじ怪かい大おほ馬ま上うへ不な上じやうくくハ戒汝僧かいにょそうも頭かぶを低面ひめんを掩おほふ風かぜを避よ行者怪風かいふう乃すなはち起おこるる然しかんん急いそ小ち走はりきこころ小ち早怪物そうこぶつ有ある僧そうを捉とます去き去き要よ回わく風声ふうせい息いき日色にっしき明あたりあり行者大おほ小喝こくしし師し又また那里なれ行いむむいいぞぞ同どうハ戒汝僧かいにょそう爬起はいきりり曰い風ふう緊きんくく以も来きりり更さら眼めを閉しめる能よずず師し又また伏ふく馬ま上うへ不な居ゐ玉ぎよが何地なつて行いりり不し知し行い者しや牙かを咬か師し又また我言われごん不な納なくく毒手どくしゆ小ち前まへハ旋風せんぷう

ハ樹上きよくの孩兒がごのち手て処ぢたりり我他われを認とりり損殺あやむししれれも解と死しるる法はふをを風かぜを護まもりり師し又また把とりり我われ那妖なまじ怪かいを尋たづねねりり師し又またををここららききこころろハ戒汝僧かいにょそう俱とも小ち行李りやうぎを収おさめる馬まを匹ひきりり山やま小ち尋たづねねのの行いむむ五ご七しち十里じゆり小ち跡あと方かたりり行者身かうしんを將まりり一ひと度たび縦たりり峰みね頭かぶ小ちとと捻訣ねんけつ念兒ねんゑをを山やま神かみ土つち地ぢ神かみききこころろ行者同かうどう曰い這山このやまを何山なんのやまととひひ妖怪ようかい乃すなはち任所にんじよを何所なんじよかあるある土つち地ぢ山やま神かみ跪ひざま下くだりり曰い這山このやまをを誰たれぞぞ鑽頭せんとう號山ごうざんとと做しここ山やま中なか一ひと條じやうのの枯松こそう洞どうありあり洞どう辺へ小ち洞どうありあり火雲洞くわんくわんどうとと号なくく他妖猪たいうぢの任所にんじよなりなり他神たかみ通廣とうくわう大おほくく常つね々々我われ亦またを唱なんんとと攻使かうしりり行者かうしや曰い他た那里なれ乃すなはち妖猪たいうぢ字あざなを磨こりり呼よびり衆神しゆじん曰い他たを牛うし王おう乃すなはち兒子こいぢ羅刹らせつ女によ小ち親おやとと曾そろろ火焔山くわんえんざん小ち在ありり三百年さんひゃくねん修しゆ行ぎやう一ひと三昧さんまい真火しんかを煉成れんじやうとと牛うし王おう他たを使つかりり此山こゝ中なか乃すなはち鎮守ちんしゆとと名なを呼よびり



紅孩児といひ號を聖嬰を王と有りつと語りたる行者山神土地を退  
しり。峯頭を跳下り八戒汝僧小曰。兄弟赤心を安んせよ。他妖怪をい  
かろ者ともひひ牛王が兒子なり。老孫五百年前牛王と結ぶ兄  
弟とあり。他が孩児とまふら我姪なり。他敢て師父を害せざ。早く行  
く他を尋しと。三人遂に路を急ぎ進み行り又百余里忽ち一派の松  
林をみる中一箇の洞あり。洞の辺一箇の洞府あり。行者が曰。此に  
妖怪の住所ありと。汝僧小馬行李を守らせ八戒と連て進み入  
心猿遭火敗  
木母被火槍

却説兩人の枯松洞を跳起進み石洞前に至り。門外一箇の石  
碣あり。上八箇の大字を鐫り號山枯松洞火雲洞とあり。一群の小怪  
那裡不在。鎗を論。劍を弄。屠屠居たり。行者呼ぶ曰。小妖們早く去

く洞主。報知せ。我師父を送りませ。汝も性命を免れさせん  
小怪少く忙しく洞小令報。曰。洞外一箇の毛臉雷公。乃て此和尚  
長嘴大耳の和尚。唐僧を要んとす。大王是を守り。小妖小令  
く五洞の小車。推出させ。其身。手小一揮。乃て火焰鎗を執。盔甲を  
く。只見る腰の間に一箇の赤い錦繡の裙を束。門前ふきり出。行者  
借他をみる。小面。傳移乃て唇塗朱乃て。青雲の鬘。新月  
の肩端的なり。女大高く呼ぶ曰。汝何者。これぞ喧しく。以。嗚や。行者  
笑。曰。賢姪。早く我師父を送り出。親情を。多。や。乃て。好姪  
大。お。喝。曰。汝。濊。猴。我。汝。何。の。親。情。有。る。行。者。曰。汝。ハ。何。知  
む。や。我。ハ。五。百。年。前。大。い。大。官。を。用。せ。各。天。大。聖。孫。孫。悟。空。乃。我  
往。年。り。つ。り。高。傑。し。交。を。結。ぶ。汝。今。尊。牛。王。と。結。ぶ。凡。第。一。





西遊記



悟空  
八戒  
師又  
大雲

驪山栢松洞大雲

悟空

八戒

西遊記



しかる。其河を汝いふ不生知ざる由宜かり。那怪是を信とせず  
 嘲々々々。火焰鎗を拾り突て々々。行者大不怒。鉄棒を論して  
 相迎。戦ふ。二十余合い。勝敗を分ざる。八戒。鉈をよこ  
 撃。々々。妖精。兩雄不敵。鎗を収て引退。成行者。戒透  
 さす。追蕙る所。只。那怪。鎗を挙て。中間。一柄。車の上。不  
 立。一個。兎。結を念。念。裡より。火を噴出。鼻子より。濃烟  
 逆出。る。と。火。焔。焔。生。五。柄。の。車。乃。上。火。光。湧。出。妖  
 精。連。々。數。口。の。火。を。吹。か。紅。烟。焔。々々。空。を。焼。一。烟。火。四。方。不  
 充。満。々々。八戒。慌。々。曰。哥。哥。這。火。裡。不。在。我。徒。活。る。を。早。く  
 走。れ。と。い。ひ。さ。る。洞。を。過。て。跑。走。る。行。者。火。避。火。の。訣。を。結。び。火。中。に。撞  
 へ。妖。精。を。尋。ね。ぬ。れ。も。他。只。管。烟。火。を。吹。出。一。行。者。の。眼。と。迷。漫

しぬ。此火を金角が呼一。天火と名。是妖。乃。修。煉。成。真。の。三  
 昧。火。を。り。五。輪。の。車。ハ。五。行。を。合。一。五。行。生。化。々々。火。を。煎。成。と。さ。る。の  
 行。者。妖。火。の。飛。騰。と。さ。る。洞。門。路。經。を。も。刀。々々。能。く。こ  
 身。を。抽。く。火。中。を。跳。り。出。き。妖。精。も。火。具。を。収。め。洞。中。へ。引。入  
 々々。却。經。行。者。ハ。拈。松。洞。小。ま。り。々々。八。戒。を。喝。曰。汝。這。對。子。妖  
 火。を。懼。く。敗。走。り。老。孫。を。捨。殺。小。せ。と。す。乃。汝。を。如。此。々々。如。何。ハ  
 八。戒。曰。内。勢。を。繼。者。を。呼。く。俊。傑。と。す。妖。精。已。小。汝。を。認。親。と  
 能。ず。却。く。不。義。乃。火。を。出。て。走。り。々々。意。戦。一。空。く。死。を。需。く  
 々々。練。を。見。小。似。々々。行。者。曰。他。う。鎗。法。恐。る。小。不。足。と。い。ふ。も。々々。火  
 勢。有。を。奈。何。せ。汝。僧。曰。他。小。火。勢。あ。ら。う。勝。を。取。る。不。能。師。兄  
 何。ぞ。相。主。相。尅。う。理。を。り。々々。他。小。勝。さ。る。行。者。手。を。拍。汝。乃。以。處。理。有



り一桐生桐射をかりて論せむ。是水をかりて大を討てし。汝は須臾  
 茲は待我海竜王の水を借あり。汝大を濺息し。這妖精を捉し。と  
 遂に雲頭小跳上り。須臾東海小つり。水晶宮小入竜王小見て曰。號  
 山乃紅孩兒我師又を捉去。我他と復戦さる。何心ち妖大を出し。と。  
 我勝を取て我不利。ゆゆ水と大を討て願う。我他と戦を挑む  
 と。此大雨を降し。妖大を濺滅。唐僧乃一難を救ひ。竜王曰。然る  
 を我舎弟三海竜王を將。行雨を降させ。行者大つ小愧び。即ち  
 小三海竜王を邀へ。小拈松洞の上小つり。行者衆の竜王小つひ。子  
 我他と復戦さる。我待他。大を放し。出さ。我呼を穿て。一尋小雨  
 を降せ。約定し。頃々雲頭を降。拈松洞小入。八戒沙僧小云。乃  
 かりひ死を云。ませ。洞を跳。越洞小つり。妖精師又を返せ。叫ぶ

小女へ。斯く報。これ紅孩兒急小長鎗を提げ。妖小五柄の大車  
 を推出。走ま出る。行者喝。曰。賊怪。早く師又を送り。出。性命を  
 全せ。紅孩兒笑。曰。唐僧。我按酒之物とせり。汝今。八殺。我莫思  
 行者怒。鉄棒を論。と。ち。惹る。妖精。由。大々鎗を拳。戦。一  
 二十余回。と。勝。了。死。を。知。早。く。身。を。抽。又。火。を。吹。出。せ。五。柄。の。車  
 の上。烟火。逆。起。赤。焰。起。騰。る。行者。頭。を。回。一。声。高。く。呼。び。相。図。を。一。た。れ  
 る。竜王。水族。心。け。く。一。尋。小。雨。を。降。し。妖。大。を。消。く。と。れ。ど。妖。精。修。煉  
 の。真。火。と。消。す。能。ず。却。て。大。勢。盛。み。たり。大。土。小。油。を。灑。ふ。似。たり  
 行者。大。つ。小。焦。燥。避。火。乃。訣。を。捻。み。大。中。小。跳。入。妖。精。を。尋。り。討。へ。寺  
 紅孩兒。是。汝。也。行者。面。を。壁。か。り。一。口。の。烟。を。噴。く。行者。急。小。頭  
 を。回。一。是。を。度。せ。も。烟。眼。中。小。入。眼。花。蒼。乱。と。る。能。く。と。原。来



行者火を恐まきししゆも。只烟を怕るうゆなり。妖怪撥ふ棄り。又  
 一口の烟を噴くれば。今不堪うの雲ふ綴り敗走らふぞ。妖怪積まふ火具を  
 収り洞中へ入りぬ。這同行者の身烟大に暴燥。林禁難くて。運水洞水に  
 跳へ水をひつて。身を冷まふ。何ぞ知れ冷水に逼られて。大氣心を攻  
 三魂散れ。氣胸堂小塞り。口舌冷て倒れり。竜王兩澤を収め高く  
 呼び曰。天蓬元師。捲簾將軍。急於師兄を救へ。八戒汝僧是を皮  
 ち急し馬戎曳り。林を走り出洞辺を尋る処は。流下ふ一人の人あり  
 汝僧走寄り。凡そ是行者なり。大に強た抱よ。凡そ小蹠踏四肢  
 伸ど渾身乃冷か多し。氷乃て。汝僧兩眼小涙を流し。曰。可惜師  
 元汝億万年不老長生乃身。ゆ縁ふ妖火小燒ま。中途短命の人  
 し。かろくし声を放り。哀哭と。八戒曰。汝先哭と。莫き。汝脚を杜

我擺佈し見ん。汝僧是は。肺を搜直し。盤膝の上小坐せし  
 ひき。八戒兩手成持り。揉捻七竅を一個を押し。按了得法と。原  
 來行者死せし。ふあ。冷水に逼り。氣丹田に阻り。声を出す  
 不能し。幸ふ八戒。揉捻ら。須臾小三関を透し。明堂に到  
 孔竅を開き。三声師兄と呼ぶ。汝僧より。師兄心を惜みせ。我  
 伺這小あり。行者眼を開れ。兩人を刀々。曰。那竜王水族。何一所小  
 あり。竜神空中小在り。曰。小竜小茲小あり。行者曰。汝を遠く。勞す  
 魚魚。功をなす。只精是より。回去。後日小勞を謝し。竜  
 王是を皮く。唯。水族を師。竜言小回り去。汝僧行者と  
 松林乃下小坐。定女洞。洞神を定め。氣を順す。行者大に。嗟嘆  
 曰。師兄妖怪の爲小困ら。死救ふ術を。汝僧曰



師兄多く思ふるに勿き。我亦別小針策を定めん。先何里の行て助  
 力の兵を結きし。行者曰。那怪神通不小り。南海乃観音菩  
 薩を結まつ。妻を謀む他を降まらう。あゝ然も我渾身酸  
 痛。舐斗雲小駕る。不能奈何せんや。八戒曰。我去。結きし。ん  
 即ち雲霧を起し。是小駕る。南小向る。是より先小紅孩児  
 洞中とらう小在。想ら。行者火術子か格が多た多た多た。別所べつ往む。救きうる兵  
 を結きし。我。其裡をうし。遂小洞を跳出たしゅつ空中くう中ちゆう小在。を  
 ん。心こころち猪ぶた八戒南小向る。去さ。妖怪心中こころ小こ也や。果は然しかハ  
 戒南小走る。是他たを。観音を結きし。ん。ちちちち。急きゆう子  
 雲端を下くだ。小妖を平ひら。曰。我皮袋かわいを把とき。我一ひと拳こぶし。ハ戒之と賺  
 一ひと袋ふくろ乃内うち小こ袋ふくろき。蒸ある。汝おも吃くし。小怪せう。一ひと個この

如意皮袋いぎひを拿とり。翻ひめ。紅こう孩がい児に。雲頭うんず小こ駕が。近ちか路ろを走はり。  
 八戒より先小い。身を揺ゆ。假かり観音くわんおん。壁かべ崖が乃上のうへ端たん坐ざ  
 居ゐる。八戒はつがいを斯ごとも。寸雲すんうん小乗路じやうりやうを急いそぐ。所ところ小前まへ面めん小觀くわん  
 立た。目め菩ぼ薩ざつ端たん坐ざ。居ゐる。八はつ数すう子し。是を假かり菩ぼ薩ざつも。寸雲すんうんを停とどめ  
 礼らい拜はい。曰。不ふ憶おぼ菩ぼ薩ざつ。茲こゝ小居ゐる。と。妖怪やうがい曰。汝おも唐僧たうそうを去さて  
 西天さいてん小不ふ行ぎやう。茲こゝ小不ふ行ぎやう。何なに。八はつ戒がい。紅こう孩がい児に。三さん藏ざうを  
 捉とめ。且また行者も他たが。妖よう火くわ小燒や壊くわい。始はじめ未まへを鏡かがみ。万まん望ぼう菩ぼ薩ざつ大だい惡あく  
 惡あくを。師し父ふ乃難なんを救きうめ。妖怪やうがい曰。那な火くわ雲うん洞どう乃王おう。我われ故こ人にん。  
 汝おも我われ跟を小こ。心こころ乃是なり小こ。妖怪やうがい仕しま。旧ふる路ろを走はり  
 小こ。雲うんを下くだ。八はつ戒がいを師し洞どう中ちゆう小こ。忽たちちち。二に声こゑ内うち喊かん



八戒過  
被捉妖王



聖嬰文王

一

西遊記一卷四



八戒を將り捉倒し袋の内小装入繋く口を束し袋の上小細りこし木柶を現し曰汝八戒對子我方寸の手段小陥まらん頓ち蒸熟し小的小的ホウ下酒受用をたそへ八戒袋の中より罵り曰汝魔鬼我を騙し腫頭天瘟目小遭しやと袋の内あり乱跳りお逃れ去り不能此同行者ハ汝僧と俱小林の内小坐し有る陣の腥風面を刮り過行者噴嚏し曰這風凶多吉少必小是猪八戒妖猪小撞見しん汝坐し這里小待我去ち聴きん女僧白而兄腰疼し小弟去聴きん行者白汝少ハ不濟る口我ハ任しん遠小疾を忍み洞を跳り過洞前より窺し小妖ホこれを及ん小心小令斯と報じ妖猪令を傳し曰行者我火術小壞る敢し働し不能汝ホ去ち他を拿まされ膠の小妖令を

吶喊し洞を罔れ都り行者を拿し進む行者果し疲倦し戦し不能身をもち鑽り変り二個の包袱となり路傍小居り小妖此手段を去り已小行者をん失い件の包袱を取るまらん大王小報しん中ハ孫行者氣力衰へ包袱を丟下り逃走りハ妖猪咲り曰さも有れち這包袱を涼しんも甚値り銭も有ちんと不為意門内小丟下れん行者又毫きを抜り包袱を力り本身ハ變りち蒼蠅となり門上小住るハ城ハ皮袋の裡小在るなり声きこも又妖精六個の健將を呼り曰汝亦行り老大王の所小至り我唐僧を捉り趣を説老大王も小蒸吃り千紀の壽と延ししり請りきられし命と六性命を領り洞外小立出る小は行者起出り六怪り跟小隊り起行り必見行者何り乃手段



をうけず其八下回を看く今解<sup>と</sup>了<sup>と</sup>池<sup>と</sup>清<sup>と</sup>

繪本西遊記二編卷之五十一  
池清



